



## 小学校時代の石ころ、または原石

記念すべき発芽レターの第1号です。発芽レターはどの号も2ページ構成で、1ページ目にその号が用意するテーマ、そして著名人の自伝からテーマに沿った部分の抜粋、これらを配置しています。2ページ目は、あなたのためのワークシートです。ワークシートは1号ごとにエッセの芽を1つ書き出すためのメモ帳だと思ってください。

1年で48株の芽が集まる計算ですが、無理をする必要はありません。その半分も書き出せばいいでしょう。少なくとも24株あれば、エッセ自伝（エッセ集）を書き上げることができます。

この第1号のテーマは、小学校時代の思い出に石ころ（原石）を見つけることです。原石の意味は『エッセ入門』の中で触れたとおりです。石ころは、自慢話である必要はありません。失敗談、苦労談、恥ずかしかったこと、後悔したこと、心を揺さぶられたこと——石ころは、拾いきれないほどころがっていることでしょう。

つぎに、ビートたけし氏の自伝から1節を抜粋しました。自慢話である必要はないといましたが、その好例ともなるでしょう。

ほいで、こうやっておやじが母屋のほうを塗っていると、俺はなぜか、子供部屋のほうを塗ってんのよね。子供部屋には窓ガラスがあつてさ、そこに娘がいるんだよ。ピア弾いてそうなの。それで、勉強なんかしてんの。

俺がさ、どうしても窓ん中、見ちゃうじゃない、ペンキ塗りながらさ。それでその子と目があつたりすると、つつつつーって窓のところにやって来てさ、カーテンをピシッと閉めやがんのよね。こん時はもう、火をつけてやろうか、コノヤローと思ったよね。

もう情けなくてさ。情けないまま、あの冬の寒い時にさあ、ずつつらつつら自転車を、兄きと俺とおやじが引きずって、ボロぎれ持って帰って来るんだよね、うちへ。つらかったよね、あれも。

『たけしくん、ハイ!』（ビートたけし著、新潮社発行）より一部抜粋

小学生のころは多感さゆえに、心が傷つくことの多い時期ですね。きっと、あなたにも経験があるのではないですか。もしかすると、なぜ自伝にそんなことを書く必要があるんだ、そう思われるかもしれません。

しかしあなたの心の傷もまた、現在のあなたという存在を形づくっている要素の1つではないでしょうか。

とはいえ、この発芽レター第1号は、心の傷がテーマではありません。あくまでも、小学校時代の磨けば宝石になるかもしれない石ころを見つけることです。ですから、自慢話でもいいのです。自意識過剰となることなく、未来の読み手の感想など気にもせず、石ころをいくつも拾い出して並べてみましょう。ああ、この石ころを文章にして磨いてみたい、そう感じるものが必ず現れるはずですよ。

さてつぎに、いよいよワークシートへと進みましょう。ここまでのあなたは〈読み手〉でした。つぎは、〈書き手〉になる番です。肩に力を入れず、メモ書きのつもりで楽しみましょう。

■思い出の中にキーワードを見つけて書き出しましょう。

\*抜粋文でいうなら「ペンキ塗り」「女の子の勉強部屋」「カーテン」「情けない」など

■いつ（何歳）のときのことですか

\*おぼろげでも書いておきましょう

■なぜその場面が心に刻まれたのでしょうか

\*静かに心に問うてみましょう

■いま振り返ってどう感じていますか

\*感じ方や捉え方が変化しましたか

■文章の最初の2行を書いてみましょう

\*1行が長くなりすぎないように

■このエッセ株に仮のタイトルをつけてみましょう

\*先でいつでも変更できます